

研究・調査報告書

分類番号		報告書番号	担当
C-141	C-180	24-038	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
題名 (原題/訳)			
Efficacy and safety of alcohol reduction pharmacotherapy according to treatment duration in patients with alcohol dependence or alcohol use disorder: A systematic review and network meta-analysis アルコール依存症またはアルコール使用障害の患者における治療期間に応じたアルコール削減薬物療法の有効性と安全性：系統的レビューおよびネットワークメタアナリシス			
執筆者			
Kotake K, Hosokawa T, Tanaka M, So R, Banno M, Kataoka Y, Shiroshita A, Hashimoto Y.			
掲載誌			
Addiction. 2024 May;119(5):815-832. doi: 10.1111/add.16421.			
キーワード			PMID
アルコール依存症、アルコール削減薬物療法、アルコール使用障害、ネットワークメタアナリシス、 システマティックレビュー			38173342
要 旨			
<p>背景： アルコール依存症 (AD) およびアルコール使用障害 (AUD) の再燃はよく起こるが、アルコール減量療法の効果は長期間の評価が推奨される。しかし、これまでの分析では期間が考慮されておらず適切な評価がなされていない。本研究では、AD または AUD の患者を対象とし、アルコール減量療法の有効性と安全性を治療期間に応じ評価を行った。</p> <p>方法： アルコール減量薬を評価した RCT について、システマティックレビューとネットワークメタアナリシスを実施した。対象薬剤は、アカンプロサート、バクロフェン、カルバマゼピン、ガバペンチン、レベチラセタム、ナルメフェン、ナルトレキソン、オンダンセトロン、オキシカルバゼピン、プレガバリン、トピラマート、バルプロ酸、バレニクリン、ゾニサミドであった。長期の多量飲酒日数 (HDD)、総アルコール摂取量 (TAC)、有害事象の発生頻度を主要アウトカムとして、プラセボを対照とした有効性比較試験を対象とした。MEDLINE, Embase, PsycINFO, Cochrane Central Register of Controlled Trials, ClinicalTrials.gov, International Clinical Trials Registry Platform で 2021 年 5 月までに公開された論文を検索した。</p> <p>結果： 55 の RCT (n = 8891) を選択した。プラセボと比較して、ナルメフェンで HDD (標準化差 (SMD): -0.28, 95%CI: -0.37 ~ -0.18) および TAC (SMD: -0.25, 95%CI: -0.35 ~ -0.16) の長期的な減少に優越性が認められたが、短期的には認められなかった。トピラマートは短期的に HDD (SMD: -0.35, 95%CI: -0.59 ~ -0.12) および禁酒日数 (SMD: 0.46, 95%CI: 0.11 ~ 0.82) の減少に優越性が認められ、バクロフェンは短期的な TAC (SMD: -0.70, 95%CI: -1.29 ~ -0.11) の減少に優越性が確認された。有害事象の発生頻度は、ナルメフェンおよびトピラマートがプラセボに比べて高いことが示された。</p> <p>結論： ナルメフェン、トピラマート、およびバクロフェンは、アルコール減量療法として有効である可能性があるが、長期的な有効性を示していたのはナルメフェンのみであった。ナルメフェンとトピラマートは有害事象の発生頻度が有意に高かったため、薬物療法は患者の希望を考慮しつつ、リスクとベネフィットのバランスに基づき選択する必要がある。</p>			